



中の
川よ
荒だ

青い雲



教育目標「めあてをもち 自分で考え ねばり強くやり抜こう」
目指す学校像「笑顔とハートのある学校」
(熱いハート、温かいハート、柔らかいハート)

村上市立荒川中学校
令和元年度第6号
令和元年8月27日発行

子どもたちの表情から学ぶもの

ぎらぎらした太陽と蝉の鳴き声が、猛暑に拍車をかけました。秋の涼しさを感じる虫の音を早く聞きたいものです。

子どもたちに大きな事故や怪我がなく、全員元気に二学期を迎えることができ、大変うれしく思います。

夏休みとはいえ、子どもたちは学習会や部活動、体育祭の活動など、一生懸命でした。がんばるその姿に感心しました。県大会に出場した吹奏楽部、陸上部の北信越大会や全国大会はじめ、各部活動の大会もあり、それぞれが精一杯頑張りました。

一学期終業式で話した「努力は人を裏切らない」、「健全な体に健全な精神が宿る」のとおり、暑さに負けず勉強したり、部活動や運動で体を鍛えたりできました。また、家族と旅行や親戚の家へ行ったことなど、いい思い出もできたことでしょう。

私がこの夏に印象的だったのは、地域の中での子どもたちの表情でした。八月二日の「あらかわ大祭」に招かれ、保内小学校・金屋小学校の両校

校長 渡辺 安治

長先生と一緒に楽しみました。村上高校のダンス部や保内小学校のメロデイズ、そして当校吹奏楽部の演奏などもありました。どの発表も日頃練習を一生懸命にした様子が感じられて、素晴らしいです。真夏の猛暑をしばし忘れて、素晴らしい。地域の二十一団体が民謡流しに参加していました。たくさん生徒が民謡流しで荒川音頭を踊っていました。サッカー部、ソフトテニス部、バレーボール部、野球部、バスケットボール部、卓球部、剣道部、このほかにもいたと思います。

「あらかわ大祭」を子どもたちは十分楽しんでるようで、日頃私たちに見せる表情とは、また違う豊かな表情でした。食べ歩きしている子どもの顔も明るく、楽しそうでした。その笑顔を見ることができて、両小学校の校長先生と共に、喜びました。

子どもたちは、地域で生活しています。そして、地域の宝です。学校は大切な地域の子どもを更に育むために、授業、学校行事、部活動などで「何を、どうするか」の先を見通し、創意工夫して取り組んでいかなければならないことを子どもたちの表情から感じました。